

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 106人

② 算数 106人

③ 理科 107人

5 留意事項

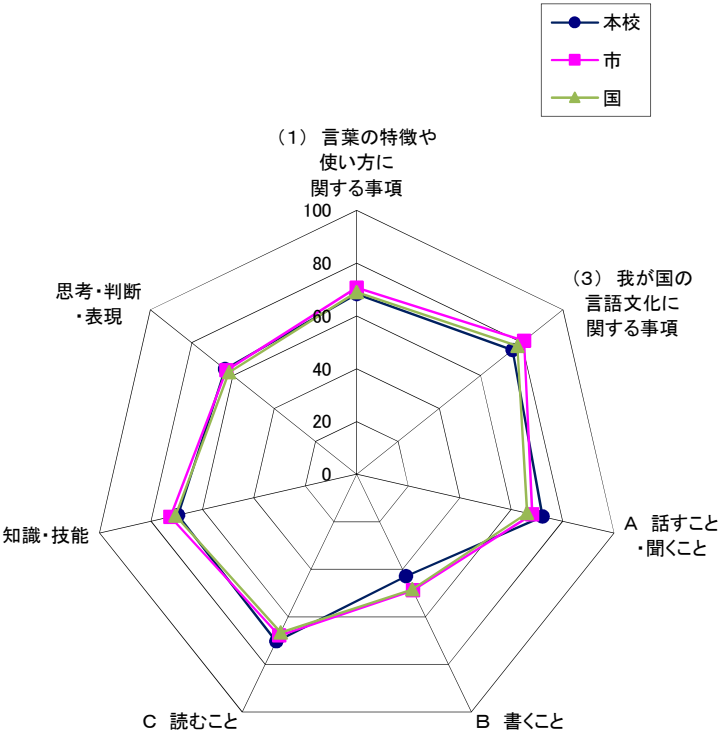
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	68.3	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	75.5	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	72.2	68.2	66.2
	B 書くこと	42.9	48.9	48.5
	C 読むこと	70.3	67.9	66.6
観点	知識・技能	69.5	72.5	70.5
	思考・判断・表現	63.9	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

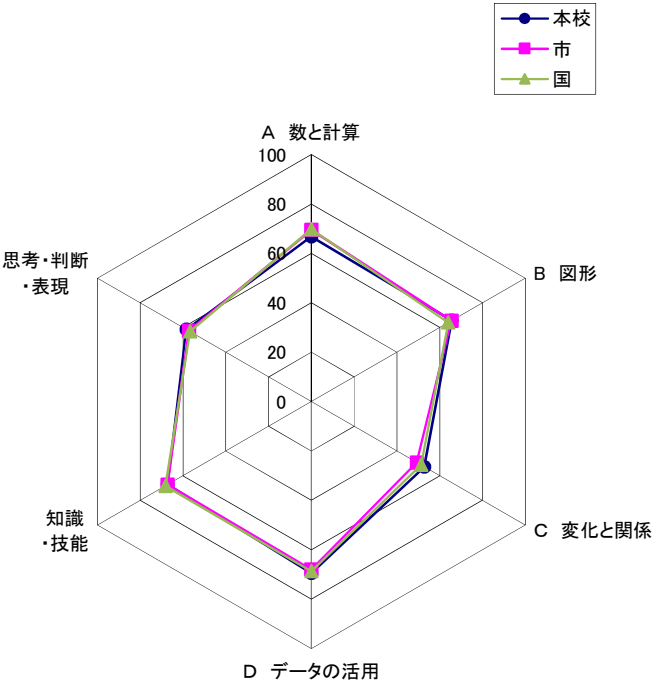
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、全国や県の平均よりやや低い。 ○話し合いの中で発言理由を正しく選択することができる児童が多い。 ○漢字を正しく文の中で使うことができる。 ●話し言葉と書き言葉との違いを理解するのが難しい児童がいる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も漢字練習に力を入れて指導し、文章を書く時に漢字を使わせることで漢字の定着を図る。 ・話し言葉と書き言葉の正しい使い方を理解し、書き言葉を正しく文章の中で使っていくことができるように指導する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、全国や県の平均より低い。 ●漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くポイントを見つけるのが難しい児童が多い。	・書写や国語の学習を通して、適切な漢字や仮名の大きさ、配列を理解させ、文章を練習する中で使用できるように指導する。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、全国や県の平均より高い。 ○必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができる。 ○互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることが得意な児童が多い。	・スピーチなどの自分の考えをまとめて発表を行う際には、発表原稿やスピーチメモを活用して筋道を立てて話すことができるように指導を継続していく。 ・各教科や領域での話し合い活動の場を意図的に取り入れていく。
B 書くこと	平均正答率は、全国や県の平均より低い。 ●文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えたり、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けたりする問題を解くのが難しい児童が多い。 ●無解答率が多い。	・各教科や単元で、自分の考えをまとめて書く活動を意図的に取り入れ、文章校正を意識させる指導を継続して行っていく。 ・授業の中でまとめや振り返りを自分の言葉で表現する時間を引き続き設定していく。
C 読むこと	平均正答率は、全国や県の平均より高い。 ○登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えたり、登場人物の相互関係について、描写を基に捉えたりする問題をよく理解している。 ●人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題について、無解答率が多い。	・さらに児童の読書活動を充実させ、優れた叙述に着目して読むことができるように指導を行っていく。 ・どの叙述に着目したのかを明確にして考えをまとめることができるような指導する。

宇都宮市立石井小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.8	69.5	69.8
	B 図形	65.6	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	52.8	49.3	51.3
	D データの活用	69.5	68.0	68.7
観点	知識・技能	67.2	67.3	68.2
	思考・判断・表現	58.5	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

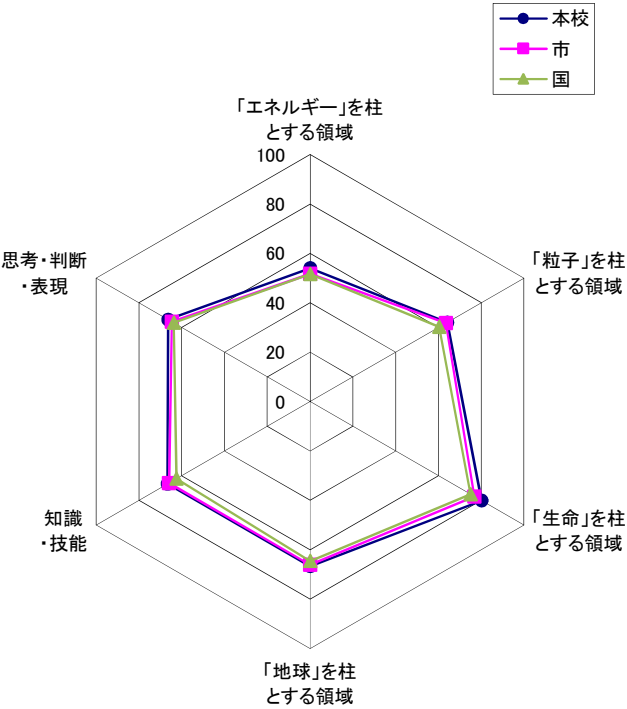
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、全国や市の平均よりも低い。 ○簡単な計算については概ね理解できている。 ●最小公倍数や最大公約数、概数、式の意味を説明するなど、根拠を伴って考える問題については、国や市の平均正答率よりも低い。 ●概数については、国や市の平均正答率よりも低く、理解できているのは3割程度であった。	・数の構成、かけ算やわり算の意味、小数や分数のしくみなど、計算の基礎となる基本的な事項について、ドリル学習などを通して知識、技能の定着を図る。 ・自分の考えを根拠をもって説明できるよう、基礎的、発展的な内容について触れる機会を増やす。 ・問題の意味をしっかりと捉えられるよう、文章問題に繰り返し取り組むようにする。
B 図形	平均正答率は、全国や市の平均とほぼ同じである。 ○図形を描くプログラムについては、国や市の平均正答率よりもやや高い。 ○図形を描くプログラムの中の間違いを指摘する問題については、国や市の平均正答率よりも高い。 ●図形を描くプログラムから、何の図形が描かれるのかを問う問題については、国や市の平均正答率よりも低い。	・具体物や半具体物、ICT機器などを活用しながら、実感を伴うものやイメージしやすい学習を取り入れる。 ・図形の定義や性質などについて確実に理解できるよう、くり返し丁寧に指導を行う。
C 変化と関係	平均正答率は、全国や市の平均よりも高い。 ○割合を分数で表したり、割合から実際の量を求めたりする問題については、国や市の平均正答率よりも高い。 ●2つの数量の間の関係について、一方が変わるともう一方がどのように変わるかを考察する問題について、本校の平均正答率は2割と低い。	・基準量、比較量、割合、百分率などの関係をしっかりと抑えられるよう、ドリル学習、AIドリルなどを中心に取り組むようにする。 ・2つの数量の間の関係や伴って変わる2つの量などについて、日常の事象を例に挙げながら、分かりやすく指導する。
D データの活用	平均正答率は、全国や市の平均よりもやや高い。 ○分類されたデータやグラフを見て、目的に応じてデータを選択する問題については、国や市の平均正答率よりも高い。 ●表の意味を理解して、表の空欄に数字を入れる問題では、国や市の平均正答率よりも低い。	・分類されたデータをグラフや2次元表に表す活動を多く取り入れ、分類、整理する能力の育成を図る。 ・理科や社会科、総合的な学習の時間など、他教科との関連を図りながら指導する。 ・問題文に書かれている条件をしっかりと捉え、解決していけるように読解力の向上に努める。

宇都宮市立石井小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	54.0	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	64.1	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	80.2	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	66.7	66.1	64.6
観点	知識・技能	66.7	65.9	62.5
	思考・判断・表現	66.4	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は全国や市の平均より高い。 ○実験の結果から、問題の解決に必要な情報が取り出しやすく整理された記録を選ぶ問題において、国や県の平均よりも高い正答率であった。 ●「はね返した日光を水の入ったかんにあてると、何色のかんの水の温度が最も高くなるのか」という課題に対するまとめから、その根拠を実験結果を基にして書く問題の平均正答率は国や県と比べると高いが、3割程度と低い。また、無解答率が17.8%と県よりも7.1ポイント、国よりも6.6ポイント高い。	・自己の思考過程の流れがつかめるノートの取り方の指導に重点を置き、自分の考えを記述させたり、自分の言葉で書かせたりする活動を継続して行っていく。 ・話し合いを通して、結果を基に自分の考えを作り出す活動を多く取り入れていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は全国や市の平均とほぼ同じである。 ○メスシリンダーという器具名を問う問題については、国や県の平均正答率よりも高い。 ●自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えを記述する問題については、正答率が4割程度と低く、無解答率が15%と国や県よりも約7ポイント高い。	・実際に見たり、体験したりする活動をできるだけ多く行うようにする。 ・話し合いを通して、他者の考えを参考にしたり、比較したりしながら、自分の考えを作り出す活動を取り入れていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は全国や市の平均より高い。 ○昆虫の体のつくりを基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ問題については、平均正答率が国や市の平均正答率よりも高い。 ●ナナホシテントウの育ち方について観察記録を基に考えを記述する問題については、国や県の平均正答率を上回っているが、無解答率が高い。	・自然の事物・現象について問題を見つけ、その問題を解決するための方法について考える活動をできるだけ多く取り入れるようにする。 ・観察したことや実験の結果から分かることを基に、ノートに書いたり、図に示したりするなど、自分の考えを表現する機会を作る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は全国の平均より高く、市の平均とほぼ同じである。 ○冬の天気と気温の変化を基に、天気よる気温の変化の仕方についていえることを選ぶ問題については、平均正答率が国や県よりやや高い。 ●夜の気温の変化について、他者の予想を基に、記録の結果を表したグラフを見通して選ぶ問題については、国の平均正答率と同じであり、県の平均正答率より2.4ポイント低い。	・「課題に対する予想を立てる」「目的意識や見通しをもって実験、観察をする」「結果を記録し話し合う」「考察し、まとめる」の流れを明確にした授業を展開し、自然の事物・現象を科学的に探究する力を育てる。 ・問題文に書かれている条件をしっかりと捉え、解決していけるよう、読解力の向上に努める。

宇都宮市立石井小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」という質問への肯定的回答は、全国と比べて4.9ポイント高く、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。」という質問への肯定的回答は3.3ポイント高い。規則正しい生活習慣が身についていると言える。

○「自分には、よいところがあると思いますか」という質問への肯定的回答は、全国と比べて5.3ポイント高く、全体的に自己肯定感が高いことが分かる。今後も、それぞれの児童のよさが認められるような機会を設けていきたい。

○「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書を読みますか。」という質問では、「2時間以上」「1時間以上2時間より少ない」と回答した児童は23.4%で、県と比べると8ポイント、全国と比べると6.1ポイント高い。また、「読書は好きですか」という質問には、79.2%の児童が肯定的に回答しており、これは県と比べると6.4ポイント、全国と比べると6.1ポイント高く、読書に自ら進んで取り組んでいることが分かる。

●ICT機器の活用についての肯定的な回答の割合が低い。デジタル教科書やAIドリルを授業中の活動で取り入れたり、学級の友達と意見を交換する場面で、一人一台端末の機能を活用したりして、活用の場面を増やしていきたい。

●「普段、（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）を読みますか」という質問への回答で、「4時間以上」と回答した児童は18%で、県と比べて2.5ポイント高い。「3時間以上4時間より少ない」と回答した児童も13.5%おり、県と比べると0.3ポイント高い。平日のデジタル機器の使い方について、家庭との連携を図りながら、使いすぎないような意識づけが必要である。

宇都宮市立石井小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動を取り入れた授業展開の工夫	ペア学習やグループ学習、ICT機器の活用を取り入れながら、協働的な学習を積極的に行い、自分の考えを書いたりそれぞれの考えを共有したりする時間を確保するような工夫を行っている。	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」との質問に肯定的に回答した児童は約79%で、全国の平均とほぼ同じである。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
どの教科においても記述式で回答する問題における正答率が低く、無解答率が国や県の平均よりも高い傾向がある。問題文を読み取り、読み取ったことを基に考えて書くことに課題が見られた。	条件に応じて自分の考えを書く活動の充実	様々な機会を捉えて、自分の考えを端的に記述する活動や、複数の資料から目的に合った情報を抜き出してまとめたり、メモを基に文章を書いたりする活動を取り入れていく。また、思考の過程を励ますことで自信をもたせ、自分の言葉で考えたことを表現できるようにさせていきたい。